

北九州市の環境再生とSDGs 未来都市への道のり

INDEX

- 市長挨拶 2
- 目次 3
- 「市民力」のはじまり～公害克服～ 4
- 環境国際協力からビジネスへ～海を越えた公害克服技術～ 6
- エコタウン事業 発進!! 8
- ごみ処理のうつかり～混ぜればごみ、分ければ資源～ 10
- 全国に先駆けたPCB処理事業～産業廃棄物の適正処理～ 12
- 東日本大震災の復興支援 14
- 自然の宝庫！自然の恵みと再興～ネイチャーポジティブ～ 18
- 北九州市の環境の未来 19
- あとがき 23

産業の発展

明治34(1901)年	八幡製鉄所、工業都市への第一歩
昭和18(1943)年	洞海湾の水が汚れて魚がいなくなる
昭和25(1950)年	戸畑の中原婦人会が公害反対運動を始める
昭和35(1960)年	重化学工業の発展とともに公害問題深刻化
昭和38(1963)年	五市合併により北九州市が誕生
昭和40(1965)年	八幡西区城山小学校で日本一多い量のばいじんが降る
	戸畑区婦人会協議会が8ミリ記録映画「青空がましい」を制作
昭和44(1969)年	洞海湾が生き物が埋めぬ「死の海」であることがわかる
昭和44(1969)年	大気汚染がひどくなり初めてスモッグ警報が出される
昭和45(1970)年	北九州市公害防止条例を制定
	公害監視センターが完成

世界の環境首都をめざして

平成16(2004)年	「世界の環境首都」を目指しグランド・デザイン策定 北九州PCB廃棄物処理事業開始
平成18(2006)年	家庭ごみ分別見直し
平成19(2007)年	北九州市プラスチック資源化センター稼働開始
平成20(2008)年	国の「環境モデル都市」に選定
平成22(2010)年	「北九州市環境産業推進会議」設立 北九州スマートコミュニティ創造事業が国の次世代エネルギー・社会システム実証地域に選定 「アジア低炭素化センター」開設
	「北九州市生物多様性戦略」策定
平成23(2011)年	東日本大震災の被災地支援開始 OECD「グリーンシティプログラムにおけるグリーン成長都市」に選定 「環境未来都市」に選定 「北九州市循環型社会形成推進基本計画」策定
平成24(2012)年	「北九州市響灘ヒートアップ」開設
平成25(2013)年	OECDレポート「北九州のグリーン成長」の発表
平成27(2015)年	北九州PCB廃棄物処理事業の処理の拡大と処理期限の延長開始 株式会社北九州レバニー設立
平成28(2016)年	G7北九州エネルギー大臣会合(EMM)開催
平成29(2017)年	フィリピン・ダバオ市との「環境姉妹都市提携に関する覚書」締結
平成30(2018)年	OECDの「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定 国の「SDGs未来都市」に選定
令和 2(2020)年	「ゼロカーボンシティ」宣言
令和 3(2021)年	「北九州市気候非常事態宣言」
令和 4(2022)年	国から脱炭素先行地域に選定 北九州PCB廃棄物処理事業の処理期限の再延長開始
令和 5(2023)年	アジア低炭素化センターを「アジアカーボンニュートラルセンター」へ改称 プラスチック資源一括回収開始
令和 6(2024)年	北九州PCB廃棄物処理事業の終了

公害の克服

昭和47(1972)年	市内54事業所と公害防止協定締結
昭和49(1974)年	洞海湾浚渫工事開始
昭和55(1980)年	洞海湾に魚が見られるようになる
昭和60(1985)年	財団法人北九州国際研修協会(現、財団法人北九州国際技術協力(KITA))設立
昭和60(1985)年	北九州市の公害克服の取り組みが世界に紹介される
昭和62(1987)年	環境庁星空の街コンテストで「星空の街」に選ばれる
平成 2(1990)年	国連環境計画から国内自治体初の「グローバル500賞」受賞
平成 4(1992)年	地球サミットで「国連地方自治体表彰」受賞
平成 4(1992)年	KITAに環境協力センター開設 「ごみとリサイクルを考える北九州委員会」設置

環境国際協力開始／資源循環型社会へ

平成 5(1993)年	「北九州まち美化懇話会」設置 かん・びん分別収集開始
平成 6(1994)年	「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例」制定
平成 8(1996)年	「アジェンダ21北九州」策定 ODAによる大連開発調査開始 「市民いっせいまち美化の日」(第1回)開催
平成 9(1997)年	北九州エコタウン事業開始
平成10(1998)年	一般ごみ収集の指定袋制度が始まり、ごみ袋が有料となる
平成12(2000)年	北九州市環境基本条例制定
平成13(2001)年	環境をテーマにした「北九州博覧祭」開催 大連市との国際環境協力を認められ「中国国家友せん賞」受賞
平成14(2002)年	「地球サミット2002持続可能な開発表彰」受賞 「環境ミュージアム」開館

グリーン成長

2023年「福岡県水素拠点化推進協議会」設立

2010年「生物多様性戦略」策定

生物多様性

2012年 がれき処理受け入れ

東日本大震災復興支援

2001年 受け入れ決定

PCB処理

2004年 施設操業開始

2024年 最終搬入

1998年 指定ごみ袋導入

2006年 ごみ収集制度見直し

1992年 国連自治体表彰

1997年 エコタウン事業承認

エコタウン事業開始

大連市の環境改善

2010年 アジア低炭素化センター開設

「市民力」のはじまり

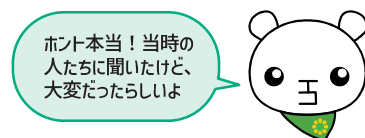
～公害克服～



市民の誇り「七色の煙」が一転公害に

北九州市は古くから九州の交通の要所、石炭の集散地として栄えた街です。明治34(1901)年には八幡に官営八幡製鐵所が創業し、昭和の高度経済成長にも大きく貢献しました。当時、工場群から出される煙は「七色の煙」と繁栄のシンボルとして受け止められていたほどです。

しかし、街の急成長は、大気汚染や水質汚濁など公害の激化の始まりでもありました。昭和40年代はじめには、洞海湾は魚もすめない「死の海」として新聞でも取り上げられ、昭和44年には、北九州市で初となる「スモッグ警報(二酸化いおう)」が発令されるような状況でした。このとき、いち早く立ち上がったのが戸畑の婦人会でした。北九州市が誇る「市民環境力」の礎となった、お母さんたちのこの勇気ある活動がきっかけとなり、市民・企業・行政は一丸となって環境改善に取り組みました。



©ていたん＆ブラックていたん、北九州市



工場を視察する婦人会
(林えいだい氏撮影：ありらん文庫所蔵)



戸畑の婦人会が自主制作した、公害被害を訴えた約30分の8ミリ記録映画「青空がほしい」は、全国で大きな反響を呼び、公害反対運動の原動力になりました。



北九州市長と企業の協定調印風景

奇跡の環境再生

企業は、それまでのエンドオブパイプ対策(排出口で汚染物質を処理する方法)に加え、経済発展を進めながら公害対策、環境改善を進めるという難題に、技術者のプライドをもって応えました。いわゆる「クリーナープロダクション技術」です。あらゆる視点から生産技術を見直し、エネルギーや水、原材料の使用量を減らしたり、副産物を再利用することによって、汚染物質そのものを減らす技術を確立したのです。

このような環境改善と経済発展を両立させた技術革新は公害を克服しただけでなく、世界をも驚かせました。



産学官民が一体となって、公害防止に取り組んでいただね

子供たちのためにも頑張ったんだね♪



② 「彩りあるまち」の実現に向けて

北九州市は豊かな自然環境に恵まれています。環境保全や情報発信を通じて、生物多様性の回復を目指す「ネイチャーポジティブ」事業に取り組んでいます。また、まち美化対策をさらに充実させて、ひとや企業が自然に集いたくなるようなまちづくりを行います。

- 自然の保全に取り組み、2030年までに海・陸の30%の保全を目指す国の「30by30(サーティバイサーティ)」目標に貢献します。
- 市民ひとり一人が北九州市の豊かな自然環境を楽しみ、また、人と生物多様性とのつながりを重視する価値観を形成するため、北九州市の自然の特徴や見どころの分かりやすい発信やイベントなどに取り組みます。
- 市民をはじめ、観光客など北九州市にかかわるすべての人が、日常の街並みを美しく感じ、居心地がよく歩きたくなるウォーカブルなまちを目指し、まち美化の推進など、快適で美しいまちづくりを推進します。

北九州は自然がいっぱいだぞ！



©ていたん＆ブラックていたん、北九州市

③ 「安らぐまち」の実現に向けて

ごみ焼却工場等の廃棄物処理施設の適切な維持、大気・水質等の環境監視、不法投棄対策等に取り組むことによって、市民が安心して暮らせる基盤を整えます。

- 市内のごみを適正かつ安定的に処理するため、廃棄物処理施設の更新・改良を適切に進め、大規模災害への対応、温室効果ガスの削減、広域処理等の課題に総合的に取り組んでいます。

みんなでごみを減らしていこう♪



北九州市の環境の未来

北九州市は、環境の新しい価値や環境ビジネスの可能性など、環境分野の将来像を示し、若者をはじめ多くの方がこの街に住みたい、そして働きたいと感じ、また環境ビジネスがこの街で起こり、発展していく、そのような未来の創造に取り組んでいきます。